

## 8.5. 動物

### 8.5.1 調査

#### (1) 調査すべき項目

オオムラサキ、オオウラギンヒョウモンの生息環境の状況とした。

#### (2) 調査の基本的な手法

現地調査によりオオムラサキの食樹であるエノキ、オオウラギンヒョウモンの食草であるスミレ科の植物の生育状況を把握し、オオムラサキ、オオウラギンヒョウモンの生息環境の状況を把握した。

#### (3) 調査地域

事業実施区域沿線とした。

#### (4) 調査地点

文献調査により分布情報が確認された事業実施区域沿線（山城多賀-玉水間）の両側 10m とした。調査地点を図 8.5-1 に示す。

#### (5) 調査期間

調査対象種の食樹（エノキ）、食草（スミレ）が確認可能な期間のうち 1 回とした。調査実施期間を表 8.5-1 に示す。

表 8.5-1 調査期間

調査対象	調査期間	設定理由
エノキ（オオムラサキの植樹） スミレ科の植物（オオウラギンヒョウモンの食草）	平成 26 年 4 月 23 日	スミレ科の植物の花期 オオムラサキ、オオウラギンヒョウモンの幼虫期

#### (6) 調査結果

現地調査の結果、調査地点において、エノキを 4 箇所、スミレ科の一種を 1 箇所、ヒメスミレを 1 箇所、ノジスミレを 1 箇所を確認した。エノキ、スミレ科の植物の確認位置を図 8.5-2 に示す。エノキは玉水駅周辺の線路脇の草地で 9 個体、民家の敷地で 1 個体を確認したほか、用地境界付近の斜面で 1 個体、山城多賀駅の花壇で複数個体を確認した。いずれも樹高 1m 程度の幼樹であった。また、スミレ科の植物は調査地点内の農地や道路及び道路脇において、少数個体で散在しており、まとまった個体数が群生する箇所の確認はなかった。また、目視観察可能な範囲において、幼虫等は確認されなかった。

調査地点では、エノキは親木が調査地点外にあり、そこから種子が供給される環境で確認されていた。ただし、安全管理上、鉄道敷地内の高木は剪定されるため、調査地点内では高木のエノキの生育は確認されなかった。また、線路脇や耕作地に隣接する土手に草地が見られるが、ヤエムグラ、セイタカアワダチソウ、ヤハズエンドウ、カラスムギ等が優占しており、スミレ科の植物がまとまって生育する開けた明るい草地環境は少なかった。



図 8.5-1 調査地点図

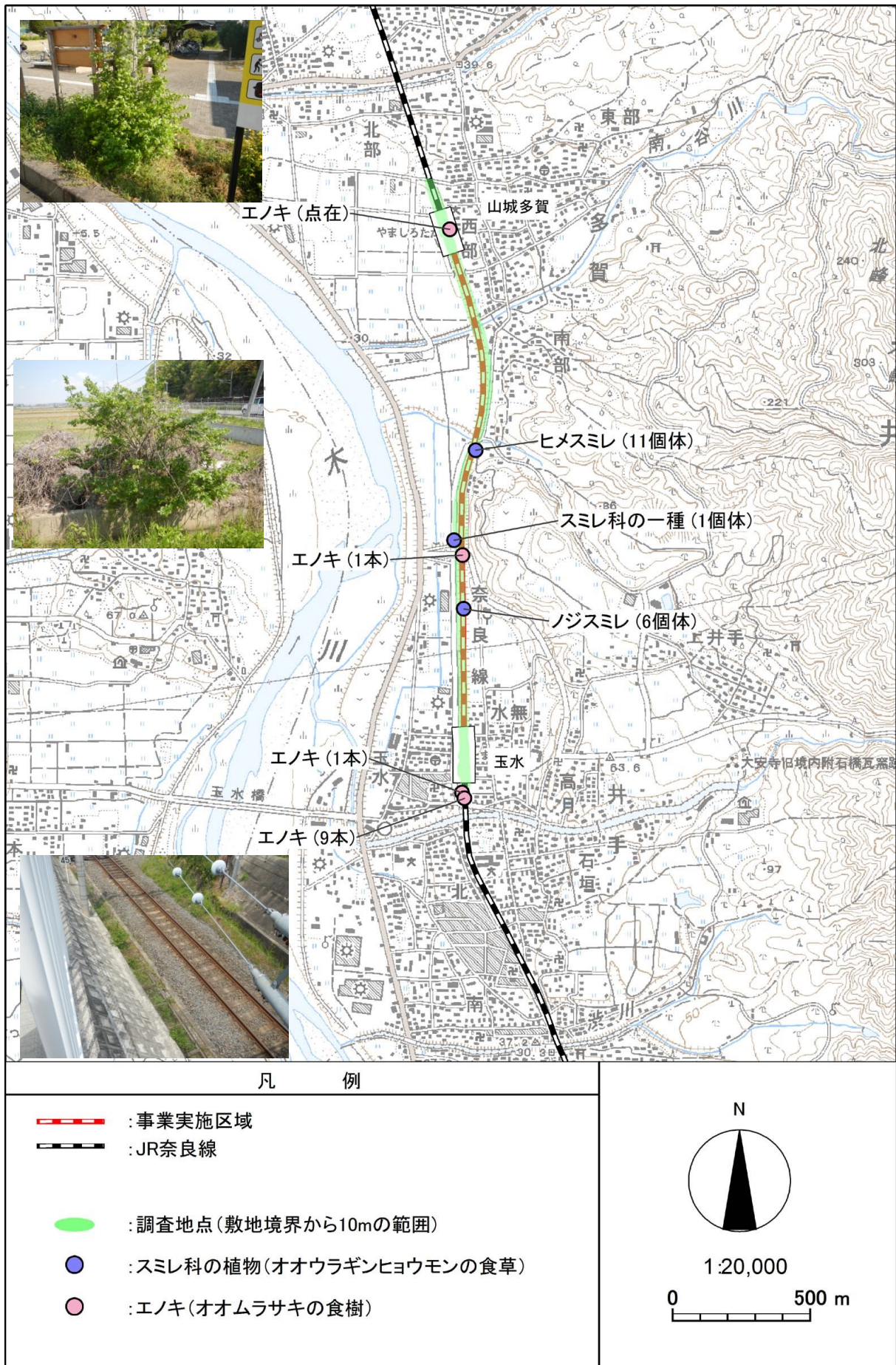


図 8.5-2 エノキ・スミレ科の植物の確認位置図

## 8.5.2 予測及び評価

### (1) 施設の存在による動物の影響

#### ①予測

##### ア. 予測項目

予測項目は、重要な種及び注目すべき生息地に対する鉄道施設の供用による影響の程度とした。

##### イ. 予測の基本的な手法

重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析により推定し、影響を予測した。

##### ウ. 予測地域

「8.5.1(3) 調査地域」と同じ地域とした。

##### エ. 予測地点

「8.5.1(4) 調査地点」と同じ地点とした。

##### オ. 予測対象時期

鉄道施設の存在による影響が把握できる施設の供用後とした。

##### カ. 予測条件の設定

予測対象種は、文献調査により分布情報が確認されたオオムラサキ、オオウラギンヒョウモンとした。オオムラサキの食樹となるエノキ、オオウラギンヒョウモンの食草となるスミレ科の植物の生育状況と鉄道施設供用後の変化の程度を、オオムラサキ、オオウラギンヒョウモンへの影響の予測条件とした。

キ. 予測結果

重要な動物種への予測結果を表 8.5-2(1)～(2)に示す。

表 8.5-2(1) 重要な動物種への予測結果

オオムラサキ	
一般生態	<p>北海道（西部）、本州、四国、九州、佐渡島に分布する。京都府内では、全域に分布するが、局地的で個体数は少ない。北部地域（丹後町、弥栄町、大江町、峰山町、宮津市、舞鶴市、福知山市、綾部市など）、中部地域（京北町、日吉町、亀岡市など）、南部地域（京都市、宇治市、長岡京市、城陽市、京田辺市、井手町、木津町、精華町、加茂町など）で記録されている。</p> <p>食樹はエノキ、エゾエノキ。成虫はクヌギなどの樹液に好んで集まる。本種の生息には規模の大きい雑木林が必要であると考えられている。越冬は主に4齢幼虫で行い、幼虫は食樹の根元の枯葉裏などで越冬する。</p>
確認状況	<p>食樹であるエノキは調査地点内の4箇所を確認された。いずれも樹高1m程度の幼樹であり、樹林の形成は見られなかった。また、目視観察可能な範囲において、幼虫等は確認されなかった。</p>
予測結果 (鉄道施設の存在)	<p>既存文献によると、オオムラサキが生息するためには、幼虫の食樹となるエノキだけではなく、成虫の餌となる十分な量の樹液の供給が必要なため、ある程度大きな雑木林が必要とされている。一方、調査地点内には成虫の生息環境となるまとまった雑木林は確認されなかった。また、本種の幼虫の食樹であるエノキは確認されたものの、いずれも樹高1m程度の幼樹であり、成虫の産卵環境や幼虫の生息環境として適していないと考えられる。このため、本種が生息する可能性はないと考えられる。</p> <p>本種の生息に適した環境が存在しないため、鉄道施設の存在による本種および本種の生息地への影響はないと考えられる。</p>

表 8.5-2(2) 重要な動物種への予測結果

オオウラギンヒョウモン	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布するが、現在確実に生息するのは中国地方と九州の一部のみである。京都府内では、北部地域（福知山市）と南部地域（宇治市、久御山町、井手町、京田辺市、山城町など）において生息の記録がある。</p> <p>成虫は、年1回、6月上旬～7月下旬に羽化し、夏眠後、秋に再び姿を現わす。食草のスミレ、ツボスミレが生える草原が生息地である。産卵は9月以降に行われ、ふ化した幼虫は摂食せず、1齢幼虫で越冬する。</p>
確認状況	<p>食草であるスミレ科の植物は調査地点内の3箇所を確認された。いずれも周辺農地や道路及び道路脇において少数個体で散在しており、事業実施区域内での生育は確認されなかった。</p>
予測結果 (鉄道施設の存在)	<p>調査地点内では、本種の食草であるスミレ科の植物は確認されたものの、いずれも少数個体であり、まとまった個体数が群生する草原のような環境は確認されなかった。このため、本種の生息環境として適した環境の存在はなく、本種が生息する可能性はないと考えられる。</p> <p>本種の生息に適した環境が存在しないため、鉄道施設の存在による本種および本種の生息地への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、既存文献では1980年頃までは木津川に生息地があった一方で、近年は京都府内で「絶滅」として扱われている情報もある。</p>

## ②環境保全措置の検討

重要な動物種（オオムラサキ、オオウラギンヒョウモン）の生息に適した環境が存在せず、本事業による重要な動物種への影響がないと予測されたため、オオムラサキ、オオウラギンヒョウモンに対する環境保全措置は実施しないが、事業計画の検討に当たっては、沿線の景観生態学的な重要性に配慮し、可能な限り事業用地内の緑地の保全に努める。

## ③事後調査

重要な動物種（オオムラサキ、オオウラギンヒョウモン）の生息に適した環境が存在せず、本事業による重要な動物種への影響がないと予測されたため、事後調査は実施しない。

## ④評価

### ア. 評価の手法

#### a) 回避又は低減に係る評価

事業者が実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか明らかにすることにより評価を行った。

### イ. 評価結果

#### a) 回避又は低減に係る評価

重要な動物種（オオムラサキ、オオウラギンヒョウモン）に対する環境保全措置は実施しないが、これはこれらの種への影響がないと予測されたためであり、本事業の実行可能な範囲内で回避が図られていると評価する。

なお、事業計画の検討に当たっては、沿線の景観生態学的な重要性に配慮し、植生の連続性を現状と同様に確保し、移動経路が途絶えないようにする等可能な限り事業用地内の緑地の保全に努めることから、事業者により実行可能な範囲内で環境保全措置が図られていると評価する。